

2022 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [豊田市立小渡小学校] 担当教諭名 [杉田 清志] (5・6年複式学級 14名)

相手国・地域 [台湾]

海外学校名 [Cheng-Kung Primary School] 担当教諭名 [Antonia Chen]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な学習の時間	SDGs学習, 「SDG15 陸の豊かさを守ろう」, 未来の農業	30
	社会	「暮らしを支える食料生産」	12
	図画工作	「壁画制作」	8
	外国語	「Hello, Friends」	6

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	Coexistence of humans and animals
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	人も動物も豊かに暮らせるような環境をみんなで作っていこう



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs学習を通して、世界の諸課題を知った。 ・台湾の小学校との交流を通して、身近な地域の問題を世界の問題としてとらえることができるようになった。 ・自分たちの将来を、具体的に考えるきっかけとなった。 ・台湾の小学校との交流を通して、日本の文化についても改めて考えるきっかけとなった。 ・自然環境を守るためにはどうしたらよいか、一人一人が真剣に考えることができるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複式学級のため、理科の進度上、知らない言葉や知識が多く、環境問題について話し合う前の準備段階に想定以上の時間を要した。 ・教科横断型の授業のため、複数の教師が関わることになり、その進度や理解度の統一などの情報交換に苦労した。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の問題を台湾の小学生たちとの共通課題として取り組むことで、思考の幅が広がっていった。「小渡は・・・」から「世界は・・・」「人は・・・」「未来は・・・」と語るようになっていったことが印象的だった。 ・台湾との交流を重ねるうちに、その違いにより、共通性に反応を示すようになっていった。外国の人という意識より、仲間という意識の方が強くなっていったようだ。 ・英語を教科として捉えるのではなく、コミュニケーションに必須のツールとして捉えるようになっていった。相手とコミュニケーションをとるために、英語表現を学ぼうとしていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsのテーマについて取り組むということで、確かに尻込みをしてしまうところがあった。課題を見つけることも、その解決法を探ることも、とても難しいという先入観があったからである。ただ、子どもたちには、そんな先入観はなく、問題に率直に向かい合っていた。教師が最低限の知識さえ提供すれば、子どもたちは自ら考え、解決策を見出していくものだと改めて気づかされた。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
調べ学習 テーマ学習	5月 6月	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの1-17の項目について学習する。 ・リモートミーティングで、互いに自己紹介や学校、地域の様子を知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs学習を通して、世界の様々な問題を知り、興味を持つようになる。 ・実際に台湾の小学生と交流ができ、今後の学習に期待感を募らせていった。 	社会6 総合8 外国語6
共有 <small>相手と意見交換</small>	7月 ～ 9月	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境についての基礎的な知識を学ぶ。 ・SDG15についてさらに深めるために3つのグループに分かれ、各々調べ学習を、夏休み期間を含め行う。 ・調べたことや考えたことをレポートにまとめ、相手校に知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の問題点が、世界の問題点でもあることに気づき始めた。 ・地域の農業、林業、生き物などについて関心をもつようになった。 ・相手校の環境美化活動や希少動物保護の話聞き、日本とは違う問題があることに気づくことになった。 	社会6 総合10
融合 <small>メッセージ作成</small>	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの活動の中から得た気づきに基づいて、議論の論点を定める。 ・フォーラムを活用し、意見やアイデアを相互にやり取りし、議論を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの学校の取組の感想を聞きあっている中で、同じ問題点であっても、考え方が違うことに気づいた。 ・相手の考えや意見に耳を傾けるうちに、それらに対する疑問点が次々と生まれてきた。 ・自分たちの考えを英語で表現しようとするようになった。 	総合8
創造 <small>壁画制作</small>	11月 ～ 1月	<ul style="list-style-type: none"> ・メッセージを基に、壁画のデザインを考え、構成を決める。 ・11月に小渡小が壁画を描き、12月に発送、12月、1月成功小が壁画を描く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの体験学習やSDGs学習で得た知識が一人一人の心に根づき始め、伝えたいメッセージが具体的になっていった。 ・考えた「未来像」を絵にする過程で、達成感を感じているようだった。 	図画工作8
評価 <small>振り返り 自己評価</small>	2月 3月	<ul style="list-style-type: none"> ・完成した壁画の感想交流を行う。 ・協働学習の様子や出来上がった壁画について、保護者や地域の人に発表する。 ・未来の農業について学ぶ。 ・1年の活動の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習発表会でこれまでの経緯や壁画について発表する姿は、誇らしげだった。 ・未来の農業について学ぶことで、将来の地域や職業についても考えを巡らせるようになった。 	総合4

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つきたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化・自文化を理解する力	5	<ul style="list-style-type: none"> ・互いに比較することで、自分たちの生活や産業のよさ、特徴に気づくことができた。互いの学校生活の違いに気づいたのも、子どもたちにとって大きな発見であった。
主体的に考え行動する力	5	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み前に、自然環境に関する基礎知識を一通り学んでおいたため、夏休み中は、各々が自分の興味・関心に基づいて調べ学習を進めていった。 ・台湾の小学生たちと交流したいという思いから、積極的に英語表現を学ぼうとしていた。 ・日本文化についても、改めて見直し、台湾の小学生に説明しようと試みた。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	5	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれが別の視点で調べ学習をすることで、話し合いの時点で疑問点生まれ、積極的に質問をしていった。 ・台湾との交流でも、自分たちが調べた内容と異なった点に疑問を感じ、その理由を解き明かしたいと思うようになった。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	5	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は、英国在住の元ALTとの英語での交流、市内の別の小学校との交流、中学生との英語交流を行ったため、ある程度の多文化交流には慣れていたが、今回の台湾の小学校との交流は、さらなる多様な他者とも親しく交流していけることに気づけた。 ・直接交流よりも、文書の交流の方が多かったため、相手の意見についてゆっくり考えた上で返答する時間があり、深く考えて交流することができた。 ・共通課題について、国を超えて協働し、作品を仕上げたことに喜びとやりがいを感じることもできた。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	4	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを言葉や形にする力は十分についたように感じるが、それを他者と融合させようとする、語彙力不足があり、ある程度教師の力を必要とした。抽象概念や専門用語となると、相手との共通語を見出すのに苦労しているようだった。